

こたに まさよ 小谷昌代さんのプロフィール 認定No.14

(弦楽ふるさとの会 代表)

小谷さんの、四ノ宮愛、琵琶愛はとにかく凄い！

私が彼女と知り合ったのは、数年前の、同志社大学大学院の公開講座。琵琶をこよなく愛する、不思議な人だなあ〜、が第一印象。その後「地域を盛り上げる」テーマで意気投合し、同じチームで熱く語り合いました。休みの日には、四ノ宮のまち歩きも体験させていただき「地元愛」の強い人だなあと、あらためて感動した次第です。

そもそも、「四ノ宮琵琶“ひろめびと”」としての活動のきっかけは、今から十数年前に遡ります。昔の山科の記憶を写真で残そう、まちの歴史を学び、これからのまちづくりをみんなで考えようという、山科区役所の取組みに応募したのが始まり。公募で集まった区民の皆さんと京都橘大学の学生さん、区役所と一緒にあって写真集『モノクローム ヤマシナ〜未来へつなぐ山科の記憶』を発行、その活動が「やましなを語りつぐ会」発足につながり、地元の方から色々な話を聞くなかで人康（さねやす）親王や琵琶のことを知り、「弦楽ふるさとの会」を設立。その後、ひよんなご縁から四宮大明神の祠を修復したり、琵琶をもっと身近な楽器として広めたいとの思いから、四ノ宮琵琶サークル「音霊杓子（おたまじゃくし）」も立ち上げることに。また、琵琶に興味を持っていたく方のすそ野を広げる活動の一環として、高価な琵琶を手軽な価格で提供できるよう機械加工に協力してくれる、亀岡の木工所や組み立ててくれる京都の指物職人やギター職人を探し出し交渉の結果、4万4440円（税別価格）での琵琶販売を実現するなど、今もって大活躍中！

さて、次の一手は何？とたずねると、「ゴール近し！」と即答。声明（しょうみょう＝仏典に節をつけた仏教音楽のひとつ）を本格的に習いその節で和歌を唄い始めたとのこと。「伝統芸能故に自分の技量の底上げをしていきたい、そのためにも楽しんでいきます」と締めくくられたのが、いかにも小谷さんらしくとても印象的でした。



2019.10.10 松尾 清嗣